

高機能放射線治療を紹介

道と第一生命は経営セミナーを開催。北海道大野記念病院の岸和史副院長が「最新のがん治療・粒子線治療」を実現した診断治療が壁を超える」と題して、最新機器の組み合わせによる効果的ながん治療を紹介した。

同病院は、サイバーナイフやトモセラピーを使用して、がん治療を行う

「札幌高機能放射線治療センター」(SAFRA)を開設。夏には陽子線治療装置も本格稼働する予定だ。

サイバーナイフはロボットアームと小型直線加速器、位置確認装置から構成される放射線治療装置。病巣にピンポイント照射することで副作用を抑え、呼吸などで目標が



北海道大野記念 岸副院長

動いても、追尾して正確な照射ができる」と利点を強調した。

トモセラピーは小型直線加速器がCT装置の構造に組み込まれた放射線治療装置。CT画像で複数の病巣位置を把握し、部位に合わせて放射線を照射することで同時に治療できるという。

組み合わせ治療として、トモセラピー、サイバーナイフ、抗がん剤動注に免疫療法を併用して、肝機能、免疫機能、骨髄機能を温存。小さな新規転移巣の出現抑制効果もあり、初診から1年後も経過観察中と報告した。

免疫療法と放射線治療は非常に相性がよく、放射線治療は細胞のアポトーシスを誘導し、がん抗原を免疫細胞に認識させ

ると紹介した。

陽子線治療は放射線の中でも副作用が少ない粒子線の一つを用いて、エネルギーがある一点で急激に大きくなる性質を利用。照射を病巣に合わせることで、正常部位への影響を最小限に抑えることができるとした。

サイバーナイフ、トモセラピー、陽子線を組み合わせた高機能放射線治療がSAFRAの強みであり、「相性のいい免疫療法と併用することで、効果が長続きするため、これから発展していく」と期待を込めた。

SAFRAは、多くの患者を受け持ち、2016年から17年で診療報酬点数が2倍以上となる中、「人手不足が課題だが、スタッフの充実を図っていききたい」と述べた。